編集後記

水島裕雅

広島芸術学会は十二年目を迎えた。会員も二百人を越え、広島ばかりでなく、関西や関東、九州からの会員も増え、さまざまな地域の方々の発表も聞けるようになった。『藝術研究』第十一号ならびに最近の大会発表にはその傾向が明瞭に見られるであろう。

田代慶一郎氏には福岡から、前田茂氏は大阪から、昨夏の大会にお出かけいただき、原稿もお寄せいただいた。

今回は残念ながらご寄稿いただけなかったが、浜田宣氏は徳島から、奥村一郎氏は京都からやはり昨夏の大会にご参加いただき、貴重な発表をしていただいた。奥村氏はその後和歌山県立近代美術館に就職されたとのこと、さらなるご活躍をお祈りする。

無論、広島の方々も大いに活躍してくださった。比治山大学の寺本泰輔氏と広島大学の長田年弘氏は例会の発表とは別に、新たに稿を起こしてくださったし、広島女子大学の樹下文隆氏と広島大学大学院生の大山範子氏は大会での発表に手を加えてご寄稿をいただいた。

島根県立国際短期大学の八田典子氏の原稿は、大会や例会の発表ではなくて、投稿規定に基づいて投稿されたものなので、査読を経て採用されたものである。会員の方は本年報末尾にある投稿規定をご参照の上、奮って投稿していただきたい。

さらに、今回は中国の山東大学の周来祥先生にご寄稿いただき、その翻訳を台湾からの留学生林于竝氏にお願いした。

芸術はもとより国家や民族を容易に越えて往来するものである。そして、遅れ馳せながら、その研究も国家や文化の枠組を越えてなされ、また研究の交流もなされようとしている。

今年の大会には、そうした国際的学術交流の一環として本学会主催の日韓共同シンポジウム「遊びの美意識」が予定されている。また、第二回の芸術展示「極大と極小」も今秋に予定されている。

以上のように、広島芸術学会はますます地方からの情報発信を担おうとしている。会員諸氏の積極的なご参加をお願いする。

（みずしま・ひろまさ　広島大学）

藝術研究　第十一号　頒価一五〇〇円

平成十年七月十日　印刷
平成十年七月十一日　発行

編集発行　広島芸術学会
〒739-0046 東広島市鏡山一―七―一
広島大学総合科学部比較文化研究室気付
TEL 〇八二四―二四―六三三五 or 六三三〇

印刷　㈱ぱぷりかプロモーション
〒733-0002 広島市西区楠木町一丁目一四―二六
TEL 〇八二―二九三―七三四四